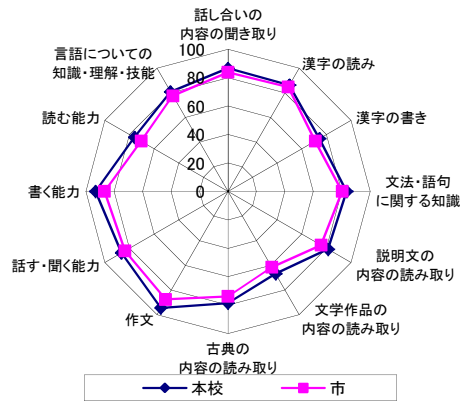


宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容の聞き取り	86.6	83.7
	漢字の読み	86.3	84.7
	漢字の書き	74.2	70.9
	文法・語句に関する知識	83.4	80.3
	説明文の内容の読み取り	81.3	75.5
	文学作品の内容の読み取り	66.8	61.6
	古典の内容の読み取り	78.6	73.9
観点別	作文	94.6	87.7
	話す・聞く能力	86.6	83.7
	書く能力	93.2	86.9
	読む能力	76.0	70.6
	言語についての知識・理解・技能	81.0	77.6



★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容の聞き取り	本校の正答率が市を2.8ポイント上回った。また、すべての出題のねらいの項目において市の正答率を上回っている。話し合いの工夫や展開および自分の考えのまとめ等の能力についてはほぼ9割前後の正答率であるが、内容を正確にとらえることについては76.3%であった。市の正答率も71.0%と他の項目と比較すると低い結果となっている。	話の要点を聴くためにメモをとることを習慣化する。また、授業中の生徒の発表や教師の説明等を集中して聴くことに重点をおいて指導する。さらに小集団学習の際には特に仲間の話をよく聴き、発表や発言に対する質問を司会を中心に進めていく授業の展開を心がける。聞き取りは概ね良好なポイントであるが、要は実践であるので話し合い活動にどう生かせるかが本当の課題であり、国語の授業以外の場面でもその能力を発揮させたい。
漢字	本校の正答率が市を1.6ポイント上回った。また、すべての出題のねらいの項目において市の正答率を上回っている。読みは正答率が100%のものもあれば、50.5%のものもあり、訓読みの難しさがある。書きは読みと比べると正答率は低くなっており、小学校既習漢字のよりいっそうの習得が課題である。	漢字は難易度が高い訓読みの指導と語彙の指導に重点をおく。漢字が読めない書けないということ以前に生活語彙と離れたものについては漢字を指導する際に語句の意味そのものも併せた指導を心がける。また、今以上に補助教材を有効活用し漢字の形・音・義を含めて指導する。それによって漢字をより深く理解することができる。また、日常生活や作文等で意識的に既習漢字を使用することなどを指導していきたい。
文法・語句に関する知識	本校の正答率が市を3.3ポイント上回った。また、すべての出題のねらいの項目において市の正答率を上回っている。慣用句や四字熟語については9割の生徒が理解できているものの熟語の組み立てについては6割程度の正答率であった。項目全体では83.4%の正答率であるが各項目によって差がある。	熟語の組み立てはその成り立ちから再度復習して定着の徹底を図りたい。また、授業中も折に触れて二字及び三字の熟語の組み立ての学習を心がけたい。 文法の学習は正答率とは関係なく生徒の苦手意識が強く、品詞名は覚えられないもの、用言の活用や品詞の意味・用法になると理解がふかまらない。したがって、効果的な表現のためになるということを周知させ、表現に役立つ文法学習を目指して指導していく。
説明文の内容の読み取り	本校の正答率が市を5.8ポイント上回った。また、すべての出題のねらいの項目において市の正答率を上回っている。文章の展開に即して内容を読み取ることに92.6%の正答率であるが、書き手の論理の展開の仕方を的確に理解する問題については市を3.5ポイント上回っているものの65.8%と7割以下であった。	論理的文章の読解において筆者の意見や主張の部分と検証・事例の部分の違いの読み取りやその構成の仕方の工夫の読み取りに力点を置いて指導する。文章の読解は一読して大まかな内容を理解することから始まるので、苦手な生徒には事前に読みのポイントを教えるなどして読みへの抵抗を軽くするなどの配慮も必要である。
文学作品の内容の読み取り	本校の正答率が市を5.2ポイント上回った。また、すべての出題のねらいの項目において市の正答率を上回っている。場面の展開に展開に即して人物の心情をとらえたり、表現の仕方に注意して文章をよんだりする項目は正答率が市を上回っているとはいえ54%程度にとどまっている。一方、場面の様子をとらえるとは正答率が80%をこえている。	文学的文章の読解において大切なことは登場人物の心情の読み取りである。作品の主題の読み取りに大に関わることに作品ごとに丁寧に順序立てて指導していきたい。人物の心情は情景や人物の行動にあらわれるので、その点を重視して指導していくことが肝要である。文章中に私はこう思ったこういう気持ちだと直接的に表現されることばかりではない点もおさえてい。
古典の内容の読み取り	本校の正答率が市を4.7ポイント上回った。また、すべての出題のねらいの項目において市の正答率を上回っている。項目別にみると古典の表現の理解や内容の把握の正答率は8～9割程度と概ね良好なものだが、主題をとらえることは正答率が6割に満たず、課題となった。	古典の読解は生徒が最も苦手とすることである。したがって、古文は歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことなどの基本的な学習から辞書等を使って現代語訳を試みるなどの学習を通して生徒がもつ古典に対する苦手意識を払拭したい。また、漢文は訓読文を書き下し文にする学習を丁寧にすることによって漢文に慣れることを目標に学習させたい。古文も漢文も音読が大切であるから授業中に十分時間を確保し、読むことへの抵抗の軽減を図りたい。
作文	本校の正答率が市を6.9ポイント上回った。また、すべての出題のねらいの項目において市の正答率を上回っている。正答率がどの項目も90%をこえている。記述式の問題でのこの正答率はかなり良好といえる。最高学年ということで作文自体に慣れがあるものと思われる。また、実態としては作文に意欲的に取り組む生徒が多く、抵抗感はずくないと思われる。	1学年から書くことに時間をかけたために400字程度の文章を書くことには慣れている。また、800字程度の課題作文も難なく書くことができる。その現状を鑑みると指導の積み重ねの大きさを感じる。今後はさらに表現に工夫を重ね、創作文等にも取り組ませたい。たしかに文章を書くことにはそれなりの抵抗感はあるものだが、各目的や内容が明確であれば書けるということをさらに実感させたい。